

シンクタンクへの期待と IBS

Expectations for Think Tank and IBS



矢島 隆*

By Takashi YAJIMA

シンクタンク(Think Tank)という言葉は、米国で1960年代後半に造られ使われ始めたものであって、元来は長期的未来に関する戦略的な政策提言を行う非営利の独立機関を指すものであった。米国においてこのようなシンクタンクが成立し機能している背景には、米国の政治制度が大統領制を採り、法案の多くを行政府ではなく上下院の議員が立案している事情を見逃すわけにはゆかない。我が国におけるシンクタンクは、国情の差異もあって、特定の企業、企業集団あるいは行政機関や地方公共団体のバックアップによって設立されたものが多く、「非営利の独立機関」で「戦略的な政策換言」を行う役割を果たすものは、育っているとは言い難い。我が国のシンクタンクは、「大辞泉」によれば、『様々の分野の専門家を集め、国の政策決定や企業戦略の基礎研究、コンサルティングサービス、システム開発などを行う組織。頭脳集団』定義とされているのもうなずける。

我が国における比較的規模の大きいシンクタンクの設立時期は時代の変わり目に集中しており、1960年代後半から70年代前半と1980年代後半に集中している。前者の時期は高度成長時代の終わりにあたり、システム理論が確立し普及していった時期にあたる。後者の時期はバブルの前にあたり、金融系の民間シンクタンクが数多く設立された。IBSの設立は前者の時期にあたり、(財)計量計画研究所(The Institute of Behavioral Sciences)の名称は、当時花形であった計量経済学、行動科学、システム理論などを背景として命名されたものであり、IBSは正にシンクタンクを標榜して設立されたのである。

それから40年を経て、世の中は高齢化・少子化、産業・金融のグローバル化などを背景に、先行きの不透明な時期が今後とも続くものと思われ、こうした時代にあって、世の中のシンクタンクへの期待は大きいものがある。今後、IBSを含めたシンクタンクが、果たすべき役割のうち主要なものとしては、次の3つが挙げられている。

第一は、国や地方公共団体の政策形成に関する論議を活性化する上で中立的かつ専門的な立場から積極的に関与することである。従来、我が国の政策形成は行政と政治の間で骨格が決まってしまうことが多かったが、今後は国民各層との意見交換、代替的政策案との比較評価など広範な政策論議を経て、政策が形成されていく方向に転換してゆくであろう。第二は、部分的な最適選択から全体的な最適選択へ政策形成のパラダイムを転換する上で、積極的な貢献をおこなうことである。例えば、自動車の利用は全体的な都市政策の観点からは抑制すべき部分があるのではないかと、土地の高度利用を追求する民間都市開発は全体的な都市環境の観点からは一定の限度内とすべきではないかと、など全体的な最適選択に係る政策課題は数多い。第三は、多様化した価値観を有する国民各層の合意形成を支援することである。合意形成に至るまでの広

* 常務理事

範な政策論議を可能とするためには、多様なステークホルダーとの効率的で信頼性の高いコミュニケーションの枠組みと方法論が必要であり、また、中立的な立場からファシリテーターなどコミュニケーションの専門家が不可欠である。既に公共施設整備について、パブリックインボルブメント(PI)の手法が導入され始めているのは、その一つの現れであろう。

こうしたシンクタンクとして期待される役割を果たしてゆくには、何よりもクライアントからプロフェッショナルとしての信頼を勝ち取るとともに、様々な政策課題に対して具体的で実用性の高い解決策を提供し続けることが何よりも重要である。そのために必要な資質は次の三つがあげられる。

- (a) 質の高い調査研究成果
- (b) 特定の利益に偏しない中立性
- (c) 優れた情報発信力

シンクタンクは人材が財産である。IBSの創草期を支えてきた諸先輩の遺産を継承しつつ、若手の研究者達が個人のレベルで、これら三つの資質にさらに磨きをかけてゆくことが、基本的に重要である。加えて、全体的かつ組織的な努力がさらに重要である。IBSでは、2003年に品質管理担当の理事を置くなどの努力を始めているが、一段の努力が必要であろう。今後、数年の間は2006年に成立した一連の法により、IBSを含めた公益法人の改革がいよいよ待ったなしの状況になる。自己改革の困難な途ではあるが、IBSはユニークで存在感のあるシンクタンクを目指して、着実に歩みを続けてゆきたいものである。

《参考文献》

- ① 福川伸次「政策形成過程における日本のシンクタンクの役割」、シンクタンクの動向 2002、NIRA 総合研究開発機構
- ② 黒川 洸「21世紀のシンクタンク」、IBS 研究報告 2000